

日本エコレザーの優位性と現状

杉田正見

NPO 法人日本皮革技術協会

1. はじめに

世界の革・革製品専用の環境ラベルの基準は、1995 年前後にエコテックススタンダード 100 やドイツの SG ラベル（有害物質検査済み）、国際タンナーズ協会のエコトックスラベルなどが相次いで発表された。更に、2000 年ごろは中国、インドその他の国々も環境ラベルを制定した。

そこで、環境にやさしい、人にやさしい、安全・安心な日本エコレザー基準値（JES）が NPO 法人日本皮革技術協会（JALT）によって 2006 年に設定された。そして、2009 年には（一社）日本皮革産業連合会（JLIA）によって JES 認定制度が開始された。

現在、JES 認定数は革が 310 点、革製品が 216 点である。また、JES 認定革を使用した製品（かばん、ハンドバッグ、靴、衣料、手袋、ベルト等）は日本環境協会が運営している「エコマーク」の適用も始まった。

日本の市場に流通している革製品は、エコラベルのような基準値に対しほとんど検査していない。将来は消費者の環境意識の高まりから、安全・安心して使える革・革製品の要求が高まるものと想定する。

2. 日本エコレザー基準（JES）

世界の環境ラベルの基準項目および基準値は大きく異なっているが、JALT はエコテックススタンダード 100、SG ラベル等の検査項目や基準値、また市場に流通している革製品の調査によって日本独自の基準値を設定した。

革の染色堅牢度は、仕上げ方法や濃色と単色などによって大きく異なる。そのため、JALT は JES の基準値を顔料仕上げ革、ナチュラル仕上げ革（濃色、淡色）によって異なる基準値を設定した。日本エコレザー基準値を表 1 に示す。

表1 日本エコレザー基準値 (JES)

検査項目	基準値		
	幼児用	成人用 (皮膚接触)	成人用 (皮膚非接触)
臭気	3級以下		
遊離ホルムアルデヒド	16mg 以下	75mg 以下	300mg 以下
溶出重金属 (鉛)	0.8mg/kg 以下	0.8mg/kg 以下	
(カドミウム)	0.1mg/kg 以下	0.1mg/kg 以下	
(水銀)	0.02mg/kg 以下	0.02mg/kg 以下	
(ニッケル)	1.0mg/kg 以下	4.0mg/kg 以下	
(コバルト)	1.0mg/kg 以下	4.0mg/kg 以下	
(6価クロム)	検出せず	検出せず	
(総クロム)	50mg/kg 以下	200mg/kg 以下	
ペンタクロウロフェノール	0.05mg/kg 以下	0.05mg/kg 以下	
発がん性芳香族アミン	検出せず	検出せず	
発がん性染料	使用せず	使用せず	
染色摩擦堅ろう度	顔料仕上げ	ナチュラル仕上げ (淡色)	ナチュラル仕上げ (濃色)
乾燥試験	3-4 級	3-4 級	2-3 級
湿潤試験	2-3 級	2-3 級	2 級

検出限界：6価クロム；3mg/kg 発がん性芳香族アミン；20mg/kg

3. 日本エコレザーの認定を受けられる革と申請できる業種

日本エコレザーの認定を受けられる主な対象革条件は以下の通りである。1) 天然皮革であること、2) 廃水、廃棄物が適正に管理された工場で作られた革、3) 環境や人体に有害な物質を排除した革を対象とする。また、革は ISO/FDIS 1515:2007 と BS 780:1983 に規定されるもの。動物皮の皮膚断面構造を損なわず、鞣しが行われ、仕上げ塗装膜が 0.15mm(150 μ m)以下で、革全体の厚みの 30%を超えないもの。JES 認証対象革として、下記の3種とした。

第一類：主たる家畜動物 (牛、馬、豚、山羊、羊) の副産物として産出する動物皮の銀付革。

第二類：第一類および第三類の革を層状に分割した肉面側の革(Split Leather)。

第三類：第一、第二類以外の革、野生動物、養殖動物で取引証明等のある革。

なお、JES 認定を申請できる業種は、革の製造企業 (タンナー)、革の販売企業、革製品製造企業、革製品販売企業である。

4. エコマークと日本エコレザー（JES）の関連性

わが国では、消費者に対して環境に配慮した商品を選ぶ印として、日本環境協会（環境省）が認定している「エコマーク」がある。このエコマーク制度は、日用品、建築、土木、文具、電子機器、機械、繊維、紙などあらゆる分野の商品に対して適用している。しかし、革製品には適用していなかった。

けれども革の基準値（JES）が設定されてから革製品（かばん類、靴類、革衣料・手袋等）も適用するようになった。すなわち、日本エコレザーの認定を受ければ、エコマークも取得しやすくなるシステムとなっている。

なお、日本エコレザーラベルには認定番号などが記載してある。この番号を検索することにより、革の種類、生産者など詳細な内容を入手することができるトレーサビリティシステムを備えている。エコマークと日本エコレザーマークの相違点を表2に示す。

表2 エコマークと JES マークの相違点

項目	JES マーク	エコマーク
認定機関	（一社）日本皮革産業連合会	（一財）日本環境協会
認定対象	革素材	革製品
ラベル添付対象品	革・革製品	革製品
適用革の範囲	1. 第一類（家畜動物の皮） 2. 第二類、（床皮） 3. 第三類 野生動物、養殖動物の皮で適正に入手されたもの	第一類（家畜動物の皮） 第二類（第一類からの床皮）
革以外の素材	認定対象外	認定対象
申請料、ラベル使用料	無料	有料



（一財）日本環境協会
（エコマーク）



NPO 日本皮革技術協会
（日本エコレザーマーク）

日本エコレザー基準認定ラベル
認定番号：○○○○○○○
革の製造国：日本
革の特徴記述・・・・・・・・
・・・・・・・・
詳細の表示：
<http://www.ilia.or.jp>
（社）日本皮革産業連合会
製造表示許可番号：12345

5. 日本の市場で販売されている革製品の JES 適合状況

わが国の製革業は原料皮価格の高騰、輸入革製品の増加などによって非常に厳しい状況である。約 25 年前では革製品市場の国産品の比率は約 50%であったが、3 年前には 7%となった。現在では 5%程度まで落ち込んでいるでしょう。

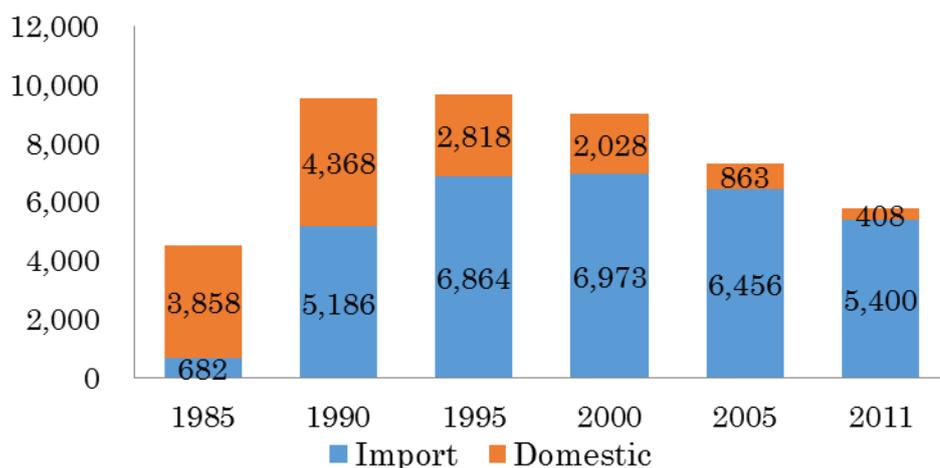


図1 革・革製品の輸入・国産の割合 (単位：億円)

表3 JES 不適合要因の出現率 (%)

年度	かばん類			くつ類			工手	財布
	'11	'12	'13	'11	'12	'13	'12	'13
試験数	29	22	27	2	14	9	15	6
臭気								
ホルムアルデヒド [※]			3.7					
溶出鉛		4.5						
溶出 Cd								
溶出 Hg								
溶出 Ni	3.7		7.4					
溶出 Co	11.1	4.5	7.4					
溶出 Cr ⁺⁶	22.2	18.2	11.1		12.5	11.1	33.3	
溶出 Cr	22.2	36.5	29.6	66.7	25.0	33.3	33.3	50.0
PCP								
芳香族アミン								
発がん性染料								
染色摩擦堅ろう度 (D)			7.4			11.1		
染色摩擦堅ろう度 (W)	25.9	9.1	7.4	66.7	22.2	22.2		

※ 3.7 は幼児用に不適合を示す。

表4 JES 不適合率 (%)

年度	かばん類			くつ類			工手	財布
	'11	'12	'13	'11	'12	'13	'12	'13
試験数	29	22	27	2	14	9	15	6
不適合数	20	11	14	1	7	6	8	3
不適合率	69.0	50.0	51.8	50.0	50.0	66.7	53.3	50.0
平均	56.9			55.6			53.3	50.0

現在、革製品には靴、バッグ、衣料、手袋など様々な製品が氾濫しているが、これらの製品に対してはほとんど無検査の状況である。市場から無作為に抽出した革製品に対して JES 項目について検査した結果、不適合要因の出現率は表3、4のような結果が得られた。検査数が少ないので確定的なものではないが不適合要因として、どの品目も溶出クロムが最も高い。次いで染色摩擦堅ろう度 (Wet)、6 価クロムと続く。コバルト、ニッケル、鉛など検出されたが非常に少ない。これらの結果から、国産品、輸入品を問わず調査した製品の JES 不適合率は全ての製品で 50%以上であり、市場に出回っている革製品の過半数が JES 不適合製品であると想定される。

6. なぜ JES 検査が必要なのか

環境ラベルは単に基準値に適合するというのではなく、製品のライフサイクルの観点から、資源採取、製造、流通、使用・消費、廃棄、リサイクルの項目に対していかに適合しているかということが非常に重要である。この目標に近づくために、われわれは革の正しい知識、使用上の問題点、JES の普及活動を行っている。

この中で、参加者に対して JES に関するアンケートを実施しているが、JES 普及に関する期待度は 90%以上となっている。

革製品の評価は、革の品質 (風合い、外観、強さなど)、商品のデザイン、縫製技術、その他いろいろな要素で購買意欲を高めるが、環境にやさしい、消費者にとって安全・安心して使用できる革製品づくりが今後重要な課題となってくるでしょう。その一つとして、JES 認証製品は他の製品に対して優位性が非常に高い。また、環境にやさしい、人にやさしい安心して使用できる革・革製品づくりが費用になってくると確信している。

7. 結論

環境保護に関する課題が年々厳しくなってくる状況で、革・革製品に対する環境ラベルは各国で設定されている。しかし、その普及については様々な課題があり、環境ラベルのついた革製品は市場であまり見られない。

当協会は各革製品専用の環境ラベルとして、日本エコレザーラベルを設定した。その認定数はまだ少ない。しかし、輸入製品は氾濫している革製品市場ではほとんどが無検査であり、JES 不適合率は過半数を占めている状況から、消費者が安全・安心して使用できる体制づくりが必要である。また、消費者のほとんど JES の普及を期待している状況がアンケート調査から明確に示されている。

このような状況において、今後の皮革産業は環境にやさしい製品づくりが要求されている段階において JES 認証品を消費者に提供する必要がある、他の製品との差別化に対しても非常に優位であると確信している。

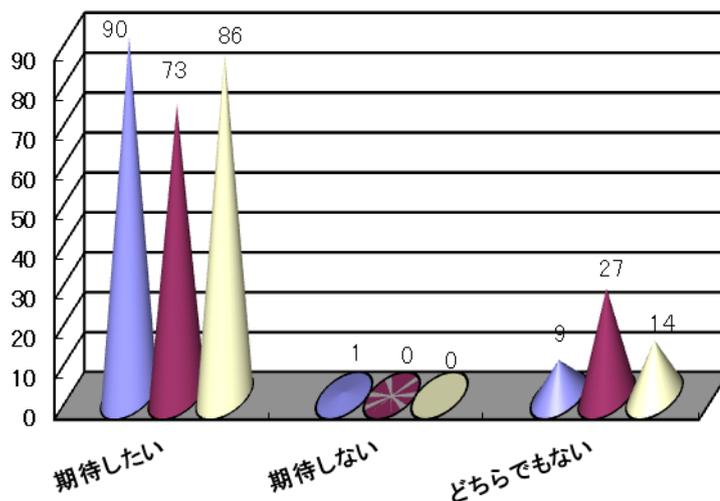


図2 JES に対するアンケート調査結果 (2013 年度)

このデータは左より東京、新潟、下関の講習会参加者から収集したものである。図中の数字は回答者の人数。